



すまいる福江！



福江高校は、生徒の多様なニーズにこたえます！

2019年12月1日

～福江高校内に、特別支援学校・分教室「潮風教室」が設置されます～

- ◆来年4月、豊橋特別支援学校の分教室「潮風教室」が、本校の施設を活用して設置されます。
 - ◆潮風教室は、渥美半島内に暮らす特別な支援を要する子ども達の長時間通学を解消します。
 - ◆本校は潮風教室とともに、地域の中で豊かに学ぶインクルーシブ教育を充実させていきます。

渥美半島先端地域への特別支援学校分教室の設置について（10/29 記者発表資料）

愛知県では、渥美半島先端地域における特別支援学校への長時間通学の解消を図るため、2020年4月より県立福江高等学校の施設を活用して、特別支援学校の分教室を設置します。

1 分教室の概要

- ◆名称：愛知県立豊橋特別支援学校・潮風（しおかぜ）教室※県立豊橋特別支援学校の分教室とします
 - ◆設置場所：県立福江高等学校内
 - ◆設置年度：2020年度（4月開設）
 - ◆設置学級：高等部を設置します。第1学年1学級
第2学年1学級 計2学級（開設時）※第3学年は
対象なし（開設時）
 - ◆対象生徒：田原市の旧渥美町及び旧赤羽根町に在
住する中学校又は特別支援学校中学部を卒業
した知的障害のある生徒です。
(2020年度は、4人程度を想定)

2 設置の目的

県立福江高等学校の施設を活用して、特別支援学校の分教室を設置することにより、渥美半島先端地域における特別支援学校への長時間通学の解消を図ります。

また、住み慣れた地域での自立と社会参加を目指し、地域に根ざした特色ある教育を推進するとともに、高等学校と特別支援学校の向けた取組を推進していきます。

3 校名について

田原凧は江戸時代から伝承されている田原市の習俗で、「初凧（はつだこ）」は、子どもの誕生と健やかな成長を願って掲げられており、凧を大空高く舞い上がる潮風のように、『子どもたちを大きく成長させ社会へと送り出す分教室』となるようにと願いを込めています。

また、「潮風」の名称は、田原市の自然、風土に由来するものであり、在籍する生徒が海から吹く風のように『力強くたくましく生きてほしい』との意味があります。

豊橋特別支援学校の分教室

田原・福江高に来春開設

R1.10.30 中日

県は二十九日、田原市古田町の県立福江高校内に、県立豊橋特別支援学校の分教室「潮風教室」を二〇二〇年四月に開設すると発表した。田原市の旧渥美町と旧赤羽根町に住む知的障害のある生徒が対象。現在この地域から最寄りの豊橋市くすのき特別支援学校への通学には、スクールバスだけでも一時間以上かかる負担が大きいとして地元から設置の要望が出ていた。

初年度は高等部の一年と二年を各学級設け、四人が通学する見通しで、教員も地元と連携してやってい

た。

県は二十九日、田原市古田町の県立福江高校内に、県立豊橋特別支援学校の分教室「潮風教室」を二〇二〇年四月に開設すると発表した。田原市の旧渥美町と旧赤羽根町に住む知的障害のある生徒が対象。現在この地域から最寄りの豊橋市くすのき特別支援学校への通学には、スクールバスだけでも一時間以上かかる負担が大きいとして地元から設置の要望が出ていた。

初年度は高等部の一年と二年を各学級設け、四人が通学する見通しで、教員も地元と連携してやってい

た。

四年を配置する。二二年度からは二年生となり、二四年度には生徒数が十四人ほどになる見込みという。

「潮風教室」の名称は、田原市に江戸時代から伝わる初廟の風習にちなんでいる。廟を高く舞い上げる潮風のように「子どもたちを大きく成長させ社会へと送り出す分教室」との願いを込めた。

大村秀章知事は同日の定例会見で、渥美半島独自の産業を見て、「農業が特徴的なので、花や畜産といった農業を生かした職業教育も地元と連携してやってい

ければ」と述べた。

県内で特別支援学校や分教室が開設されるのは、一年以降で九ヵ所目となる。県教委は今後も県立学校の空き教室などを活用した分教室の設置で、長時間通学の解消などを進める方針。

(中崎裕)

図1 中日新聞

R1.10.30 朝刊

図1 中日新聞
R1.10.30 朝刊

県内で特別支援学校や分教場が開設されるのは、一年以降で九力所目となる。県教委は今後も県立学校の空き教室などを活用し、分教室の設置で、長時間通学の解消などを進める方針。
(中崎嶺)

図2 潮風教室の通学区域

